

# 校長室より

令和4年12月9日(金)

「糸」



先日、地域の伝統行事「秋の報恩講」に参加しました。そのときにお説教をされた住職さんのお話が印象的だったので紹介します。その住職さんは、ただお話をされるのではなく、ギター片手に歌を上手に交えながらお話をしてくださるので、私たちはすっかり聞き入っていました。

なぜめぐり逢うのかを                      私たちは なにも知らない  
いつめぐり逢うのかを                      私たちは いつも知らない  
どこにいたの 生きてきたの              遠い空の下 ふたつの物語  
縦の糸はあなた 横の糸は私  
織りなす布は いつか誰かを暖めうるかもしれない

この歌詞は中島みゆきの「糸」です。

2種類の糸（縦の糸と横の糸）で織られる布には、糸だけで表現できなかった魅力や可能性があります。

そこで、縦の糸を親鸞聖人の教えにたとえ、横の糸を私たちが持っている3つの煩惱（「欲」、「怒り」、「愚痴」といった私たちを苦しめているもの）にたとえます。3つの煩惱は決して変わることはありませんが、一枚の布としておられることで、親鸞聖人の教えによって救われ、必ず極楽浄土へ往ける身となるのです。

私はこれを教育に置き換えてみました。

学校は布を織る「機械」

教職員や保護者、地域の方々は「縦の糸」

子どもたちは「横の糸」

縦の糸は私たち大人がしっかり連携してピンと張っておくことが大切。そこにいろんな個性を持った子どもたちが横の糸となってくぐり抜けていくんです。さあ、織りあがった長畝小学校という布はどのようなものになるのでしょうか。

